

2009

秋

SINCE 1983



NETWORK VOL.136

TERRA



『日本』 撮影 田中俊郎

タイ的、日本的。

第20回小さな地球計画参加者一行が唐津城を訪れたのは8月の真夏日だった。もう夕方近くになったとはいえ、照りつける西日は厳しい暑さを参加高校生達に与えていた。韓国인高校生は唐津城の本丸跡にある売店でアイスクリームを買って美味しそうに食べていた。タイ人高校生はそれを見て売店に向かった。しかし、帰ってきた彼らは何も持ってはいなかった。そして、口々に「(値段が) 高い、高い」と話して肩を落としているだけだった。

韓国でアイスクリームは500ウォン、日本円で40円。100円のアイスクリームは韓国인高校生にとって無理すれば買える金額だ。ところがタイでの100円とは37パーツ。30パーツで焼き飯が食べられるタイでは100円のアイスクリームは高校生にとっては手が出るものではない。しかも、今回やってきたタイの高校生が住むタイの貧しい東北地方イサーンの村ではアイスクリームはほとんど見る事ができない。とても食べたい、でも高すぎる。タイ人高校生の気持ちは手に取るようにわかった。

そんなタイの高校生がホームステイ先のホストファミリーに浴衣を着せてもらった。初めての体験。「暑い、苦しい!」「カワイイッ!」とホストファミリーの妹とはしゃぐ彼女達。そして撮った記念写真は浴衣姿がよく似合っていた。

貧しいながらも地球市民の会の奨学金をもらって学校へ行く彼女達、アイスクリームが高くて買うことができなくてグッと我慢する彼女達。でもその健気さが浴衣の可憐さと合致したのだろう。タイ的なもの、日本的なものとは違いは多くあるのだろうが、子ども達の一生懸命な健気さの中には共通するものがあり、それがいつも私たちの心を動かしてくれる。

今年の小さな地球計画でホストファミリーをしていただいた田中さんからいただいた写真のタイトルには『日本』と書かれていた。

CONTENTS ■ 2009秋

古賀武夫永久名誉会長の言葉を辿る
「志と品格―光り輝いて生きる―(4)」

大野 博之 2

■地球市民の会

和顔愛語 佐藤 昭二 3

第20回小さな地球計画2009
―4ヶ国交流事業― 報告 4~7

ミャンマー通信・村プロ 8

行く人、来る人・高柳は見た! 9

■夢の学校をつくる会

夢と学校をアートでつなぐ 10

夢の学校への思い 伊豆 哲也
私の考える教育とは? 内田 孝 11

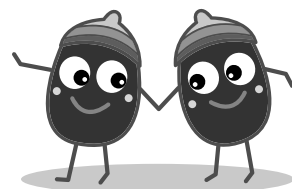
■古賀英語・空手道場

感謝する 心と日 荒谷 淑恵
空手世界大会準V 吉村直記 12

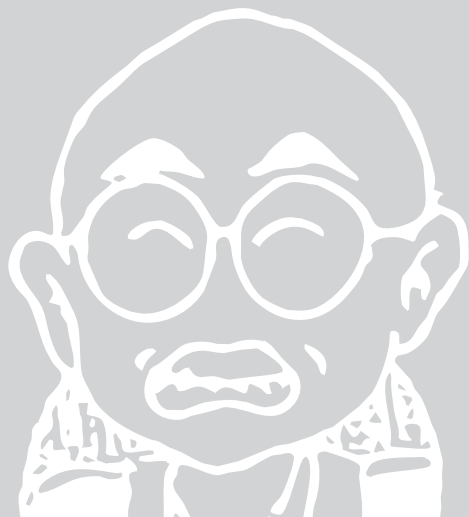
■共同執筆

協力者一覧 13

11~12月のお知らせ
スタッフのひとこと
「行楽の秋!わたしの好きな旅番組」
事務所住所 14



世界の平和と親善 地域社会の向上発展



和顔愛語

佐藤 昭二



私の先生

私の先生は、村上清という方である。今年91歳。常に国家社会を論じておられる。

この、ほとばしるようなエネルギーはどこから来るのだろうか？

常に自分の生死を越えた処に意識を置いておられるのかも知れない。

この先生とは、このような事があった。

私の友人にひとり娘さんが居られた。この娘さんが結婚し、子どもが産まれる時、病院においてウイルス性脊髄炎をわずらわれ、結果的には母子共に亡くなられた。

本当に哀しい限りの結末である。

「佐藤さん、助けてくれ」この時友人は泣いて私に訴えられた。

「佐藤さん、助けてくれ。私の気持ちはどうにも治まらない。たったひとりの娘があと何日もせずに私の処に、初孫を抱いてくるはずだった。私の友人の医師達は『これは医療ミスだ！』と言っている。しかし、裁判に掛けて勝ったところで、亡くなった娘と孫は帰って来ない。ただただ、この気持ちが治まらない」

私はこの事を、村上先生に相談した。先生はこの時福岡に住まわれていたが、この

話を聞いて、友人と話すために彼の住む東京へ出かけられた。

1度や2度ではない。何度も何度も通われたのだ。

そのうち、友人の方から「何度も、福岡から東京へ出向いていただいて誠に有り難い。出来れば交通費だけでも出させて頂きたい」との連絡があり、私は事の仔細を村上先生に申し上げた。すると先生は、私の友人の申し出を言下に断り、「佐藤さん、人間こんな時にお金を使わないで、いつ使うんだ？お金とはこんな時にこそ使うものでなければならぬのではないか？」と言われた。

これこそ、経済の基本はここにあると感じた。

世を治め
民の苦しみを救う、正に経世済民である。



Project Small Earth 第20回小さな地球計画2009



8月12日～14日

アジア自然学校 in 阿蘇 阿蘇山系でのキャンプ

雄大な阿蘇山で2泊3日のキャンプを行いました！スリランカ、タイ、韓国はもちろん、佐賀ともまた違った自然風景に溜め息がもれ、不思議な開放感に包まれていました。熊本県、佐賀県の高校生・大学生からも多く参加し、総勢約50名でのプログラムになりました！特別ゲストに静岡こども環境大使2名および静岡放送、静岡新聞社等も参加！！環境問題を考えるワークショップもみっちり行いました！本プログラムの協働団体・IOE(野外教育研究所)のおかげです。



目からウロコのエコバッグ！教えあうものづくり作業はお互いの距離がぐっと縮まりました。

2日目、3日目

2日目は朝から雨。中岳火口へのトレッキングは残念ながら叶いませんでしたが、阿蘇の魅力は十分伝わりました☆

●阿蘇神社参拝&水基巡り・・・タイ、スリランカの人たちは熱心にお参り。『縁結びの松』には全員が群がって祈願していました(^;)そして、門前町にこんこんと湧き出る水基に感嘆と羨望！

●大観峰へ！・・・「こんな雄大な草原は初めて！」阿蘇山系の全容を眺め、みんな大はしゃぎでした。

●環境ワークショップ第2弾・・・自分の地域にはどんな環境問題があり、どんな解決策が為されているか——国別にプレゼンテーションしました。地球規模の広い視野をもつことができました。

●エコバッグづくり・・・「新聞紙でバッグが作れるなんて！」手づくりのステキなお土産ができました☆

●「自然を守ろう！」環境宣言・・・『自然を守るために自分にできること』を一言ずつ寄せ書きしました。アートで表現する子も！

環境宣言をタイ語、シンハラ語、韓国語、日本語と、自分の言葉で表現。木を切ったら木を植える、今を感謝して生きる、等々。

プレゼンテーションをするスパワン(タイ)。ディスカッションやプレゼンテーションは、同じ高校生でもタイ人、スリランカ人がとても積極的でした。

この事業の目的は?・・・アジア数ヶ国の高校生が皆が『つながって』いて、同じ地球・アジアの一員で

どんな高校生がきたの?・・・タイ、スリランカ、韓国 引率の先生らも含め、

タイ: TPAが行っている地球市民奨学金の現在のスリランカ: TPAのシショダヤ奨学金受給生です。韓国: 釜山を中心に、現地公募により集まりました。

どんなことしたの!?・・・◆唐津市蕨野での里山体験 ◆ホームステイなどによる文化交流 ◆環境問題



※第20回って!?・・・「小さな地球計画」までほぼ毎年行われました。当時イプログラムで、参加者数は

—4ヶ国交流事業—大成功!!

おかげさまで

実施期間: 2009年8月1日(土)～16日(日)

助成: (財)地球産業文化研究所
佐賀銀行社会福祉基金
佐賀県国際交流基金

8月5日～7日

フィールド・トリップ in 蕨野 棚田の里山体験合宿

佐賀県唐津市相知町の蕨野(わらびの)地区で、2泊3日の里山体験合宿を行いました。日本棚田百選に入る壮大な風景にみんな大感激！そして、地域の人々の温かいおもてなしに大感動でした！受け入れてくださった蕨野地区のみなさまと、コーディネートしてくださった佐賀大学・五十嵐准教授に心よりお礼申し上げます。また、事前から当日まで準備等を手伝ってくれた佐賀大学生のみなさん、本当にありがとうございました。

～活動紹介～

1日目

- 竹の食器づくり・・・器も箸も、3日間使いました！
- 流しそうめん・・・「まるで麺の滝！」と驚き、楽しく美味しく食べました。
- 棚田ウォーキング・・・村人から棚田の歴史やしくみを教えてもらい、ただただ先達の智慧に感心。猛暑の中でバテながらも、自然観察や写生をしながらのウォーキングを楽しみました。
- 蕨野浮立体験・・・この地区の伝統芸能「浮立(ふりゅう)」を鑑賞し、おじいちゃんたちから太鼓等を教わりました。



「太鼓って難しい～、でもおもしろい！」地区のおじさんも喜んで教えてくれました♪



流しそうめんビックリ！麺は共通の食文化だけど、「流す」のは日本だけのようですネ。流れ落ちてくるそうめんを譲り合う様子は、「さすが仏教・儒教の国民」と感心しました。

この蕨野プログラムに佐賀県内の高校生2名も参加。初めての異文化交流に最初は緊張し戸惑っていましたが、最後はみんなと「マンゴーフレンズ」に♪(スリランカ式「親友」)雄大な自然のおかげもあるかな。

2日目、3日目

- 棚田の草取り体験・・・「棚田の素晴らしさと管理する苦労」を身をもって知りました。。過疎化・高齢化の進むこの地区では、棚田を維持・管理するのも一苦労です。
- シイタケ狩り・・・「シイタケって栽培できるんだ！」日本の農業技術に目からウロコ。自分でとったシイタケの夕食は格別でした。
- 花火大会・・・初めての花火に大興奮！やっぱり一番人気は線香花火。日本の「わび・さび」を気に入っていました。
- クリーンアップ作戦・・・地域の60歳以上で構成される『敬老会』のみなさんと、公民館の草むしりをしました。おじいちゃん・おばあちゃんの元気に負けないよう、せっせっせと頑張りました。



自分の食器は自分で作る！！竹からコップと器、箸もつくりました！

次世代リーダー地球会議 & さよならパーティー 8月15日



プログラム最終日——自分の地域や国、そして世界の環境問題を4カ国間で考える「地球会議」。子ども達は15日間の滞在を振り返りながら、地球に生きる一員として、地球の未来を考えました。佐賀西高校や三養基高校からも参加があり、総括にふさわしい成果を残すことができました。

第一部

『わたし達にとって大切なものはなに？』国ごとにグループを作り、40個のアイテム(水、お金、車、パソコン、預金通帳、缶詰、家族の写真、仏像など)から大切と思うものを選んでもらいました。タイとスリランカは『水』を一番に選び、韓国と日本は『お金』でした。「発展途上国と先進国の違いを感じた」とスリランカのシャニカ。しかし、その違いを違いとして認め合い、そこから学び取ろうしている彼・彼女たちに、未来を託す希望を見出しました。

第二部

地球温暖化の問題に焦点を当てました。普段の生活の中で、地球温暖化の原因になっていること、地球温暖化をストップさせるためにできることをディスカッションしました。そして、様々な違いはあるものの、地球に生きる仲間として手を取りあっていくことを誓い合いました。その誓いを「地球温暖化を防ぐために私たちにできること」として、共通の3項目を抽出しました。

～地球温暖化を防ぐために私たちにできること～

1. 再利用できるものはリサイクルする
2. 電気のスイッチはこまめに切る
3. できるだけ徒歩か自転車か公共交通機関を使う



さよならパーティー

机いっぱい愛情たっぷりの手料理が並べられました。子ども達と一緒に最後の時を過ごそうと、ホストファミリーはじめ、多くの人で会場は埋めつくされました。「みんなの出会いに乾杯～!!」各国の子どもたちは、感謝の気持ちを込めて歌や踊りなどを披露してくれました。

他にこんなこと あったよ、 やったよ!

●唐津の海で、ナースラニー(波にさらわれました! タイのスがないんだ!)と怒り気味でした。なの必死の搜索で、ナースラ

●陶彩画の今心(いまじん)工房へ。絵心のあるジャシ学びたい!と目をキラキラさせていました。スリランカ

●地球会議での大切なもののランキングで、日本と韓国の選択肢はおはこの選択に「お金は他国に行くとした紙切れなのに何で?」など。私たちはそれほどの信仰心を失いつつある。見習うところがある。」と。

参加者の声

- 今回学んだことを活かして、国のために頑張っていきたいと感じた。
- 時間通りに動くことの大切さを学んだ。
- コミュニケーションをとるのが難しかったけど、人とのように協力していくことができるかを学んだ。
- 自然との共生について学んだ。地球温暖化自体が、人々の行動によって起こっているということに気付かされた。
- 一緒に過ごすことができ、互いを助け合うことに喜びを感じた。
- 今回日本に来ることができ、人生でとても素晴らしい機会になった。

～お詫び～

今回のPSEにミャンマーの子ども達も招く予定でした。しかし、直前になって現地政府が不許可としてしまったため、彼らは日本に帰ることが叶いませんでした。彼らとの交流を楽しみにして、今後もミャンマーの人々と草の根の活動に精進してまいります。

地球だんらんホームステイ 前半:8月1日～5日 後半:8月7日～12日

ここが違うよ、日本人!

- お国料理を作ろうと台所に立ったスリランカの子ども達ですが、「火が出ていない!? 薪もない!」とあたふた…。日本はオール電化住宅が増えているんだなあ。
- 生まれて初めて銭湯へ行ったタイの先生たち。するとそこには、他人同士が裸で一つの湯船に浸かっている姿が…。「恥ずかしいけど面白い!」と楽しむスラポン先生に、「そんなの無理!」と縮こまるプリーチャ先生でした。



最後の晩餐。
お好み焼きがとても美味しく、お寿司が残るくらいでした!

ホストファミリーのつぶやき

- 子どものお守や食事の後片付けを、自然に手伝ってくれました。彼女たちには普段通りの、当たり前のことなのでしょうね。思わず我が子を振り返ってしまいました(苦笑)
- 上手な「おはようございます」「ありがとうございます」に感心! ある朝、ホストマザーに挨拶しようとスリランカの校長先生は「いただきます!」と…。家中に明るい笑い声が広がった朝でした。
- 娘が3人でできたような、とても楽しい幸せな時間を過ごすことができました。
- 時間の感覚にカルチャーショック!「急いで!」と言うのに彼女たちはゆっくり…。ちょっと苦労しました。でも、それもまた良いのかも――。
- 次は、子どもたちに会うために自分がタイへ行きたい!
- 初めての経験で不安でしたが、とても良い子だったので杞憂でした。我が子にとっても、とても良い刺激となりました。
- 『近くて遠い国』と思っていた韓国が、親近感あふれる国になりました。
- 言葉が通じないことがかえって良かったような…。自分の気持ちを伝えるために、相手の気持ちを理解するためにと、一生懸命になりました。
- タイの子どもたちと過ごす時間を通じて、「家族のあたたかさ」や“家族のあり様”を改めて感じることができました。

家族みんなが揃う夕食。
「今日はこんなことやったよ!」と、まさに一家団らん。



御礼(敬称略・順不同)

ホストファミリーのみなさま、佐賀県唐津市役所商工観光部、有明海苔(株)、唐津市相知町蕨野地区のみなさま、高志館高等学校、佐賀大学農学部I准教授及び佐大生さんたち、佐賀県立宇宙科学館、四季彩館ほりぐち、野外教育研究所、さよならパーティー炊き出し隊のみなさま、アメリカの大学生ダンさん などなど



パゴダの国から ミャンマー通信



ミャンマーインターン
木村太一

日本の皆さま、お元気ですか？私は8月からミャンマー南シャン州のタンボジ研修センターにて、インターンとして元気に働いています。

ここでのくらしは、まるで一昔前の日本にタイムスリップしたようです。人々の顔立ちも、日本人にとっても似ています。

ミャンマーは敬虔な仏教徒の国で、あちらこちらに金色のパゴダがあり、家々には祭壇がまつられ、みな毎日お祈りを捧げます。また、独自の文字と数字を持ち建築技術に優れ、道具を使ったり工夫したりすることが得意です。インレー湖のほとりにあるここタンボジでは、人々は落ち着き穏やかに暮らしています。日本から比べれば、物質的には遥かに不十分かもしれませんが、ここにはのびやかな暮らしの原風景が残されています。

このセンターでは、食事の前にはいつも寮生たちが日本語で「いただきます！」と合掌しています。これは、このセンターが日本からの支援で建設され、その環境の下で勉学に励むことができる、という感謝の意味もこもっているように感じます。また、8月下旬には鹿児島大学ツアー16名がこのセンターに宿泊し、寮生らと楽しい交流のひとつを過ごしました。ミャンマーの農村地でこのような日緬交流ができることに最初は意外性を感じましたが、ほんわかと嬉しい気持ちになりました。

ではまた、お会いしましょう。

いただきます！



2009年9月吉日

寮での夕食

佐賀市から日本国内の過疎地域の村おこし事業を委託されました。
『住民参加型地域開発促進事業』略して

「村プロ」始動！

地球市民の会はミャンマー、スリランカで住民参加型開発を実施してきました。国際協力では、私たち日本人はあくまでも「ヨソ者」ですから、いつかはなくなります。ですので、事業に住民が積極的に関わってもらわなければ、私たちがいなくなったら事業が終わってしまうということが起こります。そうならないために地域の方の当事者意識を高めるために、住民参加でプロジェクトを立案していくようにしています。

その技術を日本でも生かせないかと考え、地域の過疎や限界集落の問題について佐賀市に提案したところ、採択の運びとなり8月末から実施されるようになりました。

地球市民の会は日本の人々の心や地域を啓くことを目的として、国際協力もおこなう団体であるということから、国内の問題解決に関わるのは不自然なことではありません。今までどおりタイ・ミャンマー・スリランカの事業は力を入れていきますが、新しく地域の事業も行なうというようにお考えください。

この事業は2年半の限定事業ですが、25周年事業で採択された「TERRA アピール2009」の「農」プロジェクトの実施の前段階事業と位置づけられています。今後の発展を楽しみにしてください。

行く人、来る人



離職

山内 一平

2009年9月をもって、ミャンマー調整員を離任することになりました。私は、ミャンマーインターンとして1年、調整員として1年、国際協力に携わらせて頂きました。私の胸に思い浮かぶのは、出会った数多くの心優しきミャンマーの人々の姿です。ほとんどすべてが農民で、みな日に焼けて肌が黒く、年頃の女の子から年配の女性まで例外なくその手は厚く、ひび割れ、ごつごつして、肌には深いしわが刻まれておりました。彼らは不特定多数の貧しい「裨益者」ではなく、顔も名前もある感情豊かで笑顔のすてきな人々。家族や地域、民族を何よりも大切にしている人々でした。彼らと一緒に働くことができる場を与えてくださった地球市民の会と、会の活動を支えてくださっている会員の皆様に感謝いたします。本当にありがとうございました。



着任

岩永 清邦

初めまして！岩永清邦と申します。出身は佐賀県鹿島市です。大学卒業後、青年海外協力隊として2年間中国で野球の指導を行ってきました。帰国後、地域のお役にたちたいと思い、また縁もあり地球市民の会で働かせていただいております。担当は「地域元気プロジェクト」といい、村や町の問題を住民の方々と一緒に考え、問題解決に向け共に行動をおこしていくというものです。今は知識のインプット中で毎日が勉強です!!今まで知らなかった情報が一気に頭の中に入ってきますので、頭の中の整理が大変です。。久々に頭使っているな～という感じです。しかし、新しいことを勉強できる楽しさも感じています。これからいろいろとお世話になりますが、何事も全力投球で頑張っていきます！どうぞよろしくお願い致します！



着任

小山 大輔

はじめまして。ミャンマーで調整員をさせていただく小山大輔です。私は瀬戸内海の小さな街で生まれ育ちました。そこには造船所があって、港があって、漁師町があります。そのせいか海が大好きです。自分としては広島弁を話しているつもりですが、他者に言わせると関西弁と東京弁が混ざった話し方だそうです。学生時代に4年ほど京都で暮らし、就職してからは頻繁に東京出張（なぜか長逗留）したからだだと思います。京都でも東京でも下町しか知らず、テレビ番組で下町特集をやっていたりすると懐かしく感じます。結果として、中京（なかぎょう）や品川に行くといまだに迷子になってしまいます。九州に来たのは中学校の修学旅行以来で、なんだかワクワクしています。博多美人の言葉通り、九州は美女の産地ですね。すっかり「ときめいて」しまいました。そのときめきも空しく10月には出国します。しかしながら、地球市民の会のために汗を流すことができると思うと光栄です。よろしくお願いします。

高柳は見た! 事務局員の素顔!!

前回、好評につき今回もコラム「高柳は見た」のワクをいただきました。書きたい放題だったのが受けたのか……。しかし、決して連載ではありませんのであしからず。

今回は、私も初体験の「小さな地球計画」（通称:PSE、前ページ紹介）なるプロジェクトにおけるスタッフの活躍（裏方）について書いてみたいと思います。指揮官はTPAきっての精鋭、畑さん。それを支えるアメリカの大学生インターンで通訳係のスウィージー弾君、佐賀大学生インターン&ボランティアとで、計画を練りに練って実行しました。もちろん、一般ボランティアの方々、TPAスタッフも要所要所でお手伝いしていました。

私的には、スウィージー弾君がTPAのインターンとしてアメリカから来佐して帰っていくまでの、2ヶ月半の彼の成長度に注目してみました。来佐してきたときから『できる男』でしたが、ここまで活躍してくれるとは想像していませんでした。

このプロジェクトの一番のネックは、やはりコミュニケーション。タイ人には英語が通じないので、日本語→英語→タイ語と二重通訳が必要でした。タイの引率者スラポン先生には、英語をタイ語に訳してもらいました。プロジェクト開始一週間目は緊張しているのもあり元気に振舞っていた弾君でしたが、二週間目はさすがに弱音を吐くようになり、私たちもちよっと心配しました。しかし、最終日に日本の高校生と招聘高校生と

の8時間にも及ぶディスカッション「次世代リーダー地球会議」もなんとか乗り切ると、弾君に清々しい笑顔が戻っていました。最後の挨拶では感極まって涙する場面もあり、相当なプレッシャーが彼の肩にかかっていたのだらうという事が伺えました。私は、スムーズに通訳していく彼を見て、「将来は通訳者になれるね」と気軽に問いかけたら、意外な答えが……。通訳を職業にしたいとは思わないとの回答でした。通訳するのは大変神経を使うらしいのです。それを聞いて、2週間の彼の苦勞をまた垣間見た気がしました。

早く両親の元へ帰りたいと本音を覗かせる姿は21歳の等身大の彼。きっと達成感と疲労感とちょっぴりの切なさを持って帰って行ったことでしょう。

本当にひと回りもふた回りも大きく成長していった彼が眩しく、羨ましく、嬉しくなる私でした。このプロジェクトに大きな功績を残していったスウィージー弾君、ありがとう!!今度はTPAスタッフとして帰って来てくださいね〜(笑)

最後になりましたが、快くお請けしていただいたホストファミリーの方々、お忙しい中お手伝いいただいたボランティアの方々、本当にありがとうございました。

地球市民の会は今回のような充実感ある活動をすべく頑張ってますので、今後ともよろしくお願い致します。

参加者のつぶやき

「大人が一瞬懸命生きる、輝く、教えるのではなく伝える、思い込みを外す、たくさんの胸に残る言葉がありました。」

「子ども達の感性に改めて驚きました。たとえば、色とりどりの石を見て感じたことを言葉にする活動で、黒っぽい石を見て、ある子が一言。『イカスミ!』」

「大人と子ども、共に学び合うことを感じられた一日でした。」

「笙の音色が忘れられない。」

～身体で聞く～

青柳達也(身体表現 おかしら)

僕にとって身体表現とは「身体で聞く」ということです。耳を澄ますように身体全体で相手や物が表現していることに注意を払います。それを頭の中で理解するのではなく、感じ取ったままの状態で自分の身体を反応させるのです。心は経由しても、あまり考えるということをしません。その瞬間に表現されたものをプロセスする必要などなく、ただ身体と身体がコミュニケーションをとるだけでいいのです。意味付けをしなくていいのです。

何に感動したとははっきり言えなくても、何かに感動した体験はきっと誰にでもあるでしょう。人間は「頭の中で理解できないもの」や「解らないもの」に抵抗があるようです。心に伝わるだけでは十分ではないのでしょうか。感動するだけではいけないのでしょうか。理由を考える必要があるのでしょうか。

メールや携帯電話やインターネットなどで便利になった世の中で、失いつつある基本的な人と人の生のつながりとは、文字や言葉では表すことのできない身体と身体の対話ではないかと思います。

*おかしらや武雄市の皆さん始め、協力して下さったすべての方々に感謝いたします。

「こんなアートもどう？」
(夏休み仮面づくりワークショップより)



夢と学校をアートでつなぐ

〈第1回アウトリーチセミナー〉

子どもとの活動(授業)に対する夢とアイデアを持った先生、教育関係者が世界中から集い、相互の交流と実践を通した新しい発想と活力を生み出すことを目的としたセミナーです。

第1回を、8月27日(木)、山内東小学校舟原分校(佐賀県武雄市)にて開催しました。(プログラムは下の通り)佐賀、福岡、長崎、熊本、山口などから集まった約30名の参加者が、アートを通して心を開き、つながることを体感し、各自の現場での応用の可能性に胸躍らせる一日となりました。

第1部 10:00~10:45

基調報告

「夢の学校にできること・
アートが学校にできること」

報告者 土井美智子(夢の学校副理事長)

第2部 10:50~12:20

シンポジウム

「アートの力 それぞれの現場から」

コーディネーター 草場一壽(夢の学校理事・陶彩画家)

パネリスト 樋渡啓祐(武雄市長)

坂井けい(舞踏家)

夢輝のあ(歌手・俳優)

栗原誠治(ティーンズミュージカルSAGA主宰)

青柳達也(演劇指導者・英語教師)

第3部 13:30~15:30

アートプログラムづくり

コミュニケーション重視型のプログラムを一緒に創り込む

プログラム①身体表現を使って

講師 坂井けい(舞踏家・演出家)・青柳達也(演劇指導者)

プログラム②声や音を使って

講師 夢輝のあ(歌手・俳優)

栗原誠治(ティーンズミュージカルSAGA主宰)

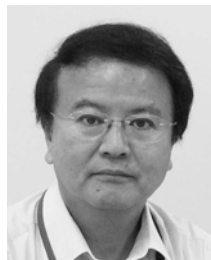
大津典子(笙演奏家/伝統文化コーディネーター)

第4部 16:00~17:00

子どもたちと一緒にプログラム実践

第5部 17:00~18:00

感想発表と意見交換



「夢の学校への思い」⑨

夢の学校への思い

監事 伊豆 哲也

もう30年も前になります。当時私はサンマークという教育関係の出版社に勤めていたのですが、入社2年目に「八ヶ岳高原国際幼児教育セミナー」という事業に関わりました。「国際幼児教育セミナー」は、分野を問わず国際化が進展していた時期、幼児教育の分野でも国際的な視野を持つという試みでした。弱小出版社が取り組むには大それたテーマでしたが、何とか実施に漕ぎ着けました。名前を挙げてもご存じない方が多いかも知れませんが、ねむの木学園の宮城まり子さんやファッション評論のフランソワーズ・モレシャンさん、中国問題の権威中島嶺雄先生、若き日の絵本作家の木村裕一さんなどなど、錚々たる講師陣を集めました。

モレシャンさんは国際的ということについて、「木は根がなかったら倒れるように、人は背骨を作らないと中途半端になってしまう。背骨というのは自国の文化だ」という話をしました。宮城まりさんはねむの木学園の合言葉「やさしくね、やさしくね、やさしいことは強いだよ」を教えてくださいました。カナダ幼児教育学会の会長をしていたハナ・ポロイ女史は、「幼児教育者は最高のレディであれ」と檄を飛ばしました。知識レベルも教養も品格も一流の人間が幼児教育にあたるべきだと。

30年前に聴いたこれらの珠玉のような言葉は、まさに「夢の学校」が目指しているものそのものです。私は佐賀にUターンし、古賀先生や多くの優れた方々に出会えたことで、20代の時の志を具現化していける場を得たことに感動と感謝を覚えています。

「私の考える教育とは？」⑨

子どもと一緒にスキルアップを!!

農 おかしら 内田 孝（富士町）



私たちが「夢の学校」と交流を始めて4年が過ぎました。今年は田植えに始まり、8月にはソバまき、その間に「夏タマ」のキャンプがありました。なじみの子ども達もできて、その間子ども達がたくましくなっているのを見て嬉しくなりました。

ところで、お父さん、お母さんはどうですか？

子ども達が大きくなるにしたがって、親の役割は大きくなっていきます。勉強はもちろん学校の先生におまかせして、その他、あいさつに始まり子ども達が大きくなり自立していくまでに教えなければならない事がたくさんあります。私の子育ては自分のスキルアップでもありました。子ども達にはいろいろな経験をして、早く自分の将来の目標を決めてほしいと思いました。その時アドバイスをしてあげるのが親の仕事だと思っています。その為の準備が親にも必要だと思うのです。

子育ては他人まかせにはできません。

親が育てたように子どもは育つのです。自信を持って子育てするには、何が必要か考えて自分をスキルアップしてほしいと思います。お父さん、お母さん、自分の子育てに自信を持ちましょう!! 自信を持って子育てしましょう!! 私はいつも子ども達に言っていました。ただ考えているだけでは始まらない「やってみよう!!」これは自分への言葉でもあります。

夢の学校をつくる会 7～9月のご協賛 お寄せ頂きましたご支援に、心より感謝申し上げます。

下河辺様、天山様、山崎みね子様

夢!情熱!感動!

OB, OG, 卒業生は宝物です vol.7

古賀道場「ようこそ先輩シリーズ」第7弾

再び、道場の宝物OBOGの登場です。今回は、ぴちぴちの女子大生（正確には院生）、淑恵ちゃんと、そしてこの夏、快挙を成し遂げた「燃える男」吉村直記君の同級生2人の話題をお届けします☆☆☆



いつも仲良しでした♡

感謝する
心と口

九月、私は二十四歳になりました。

この時期は、約十年前に古賀先生から伺った「誕生日観」を思い出す時期でもあります。当時の私にとって、誕生日は自分が優遇される一年に一度の日でした。そのため、ここぞとばかりにわがままを言い、好物のケーキを食べ、念願のプレゼントをおねだりしながら誕生日を迎えていました。そんなある日の英語の授業中、古賀先生は、「誕生日は、自分が生まれたことを感謝する日」。

人間は、多くの人々の助けを借りて生きてきている。その中でも、特に両親は、生まれてからずっと自分を育ててくれている。だから、誕生日には、特に両親に、「今まで生かしてくれてありがとう」という感謝をしなければいけない」という旨のこ

中学生Ⅱ反抗期真っ盛りだった私は、この発言に嫌悪感を抱いてしまったことを覚えていま



快挙!

古賀道場 OB 吉村直記君 和道流世界大会 準V

吉村君は5歳から武夫先生の厳しい指導の下、空手、英語を学び、佐賀北高校では空手部を創部。日体大に進学し、現在は仕事（宇都宮で教育関係に従事）の傍ら稽古を続けています。「続けることが成功の鍵」との武夫先生の教えは、まさに今回の吉村君の快挙に繋がりました。

す。それから十年の月日がたち
当時よりは穏やかな気持でその
言葉を反芻し、その言わんとす
るところが理解出来るまでにな
りました。

小・中・高時代に道場に入り
浸っていた私は、英語・空手・
TPAの活動を通して、多くの
人に出会い、刺激に満ちた日々
を過ごすことができました。

荒谷 淑恵

荒谷 淑恵（あらたに よしえ）古賀英語道場17期生



道場の仲間、有里子ちゃん(左)、
みっちゃん(右)と一緒に。
空手道場2Fにて

佐賀西高 慶応大学卒
現在、早稲田大学大学院法務研究科在籍。小5～高3まで、道場で英語・空手を学び、中2で高円宮杯に出場。英語ミュージカル(SISTER ACT2)では素晴らしいソロを披露。また、西高空手道部では女子部キャプテンとして大活躍。才媛なのにメコン川のような大きさを感じる淑恵ちゃん。現在は、国際弁護士を目指して、猛勉強中。文武両道メリハリ美人の淑恵ちゃんが国際舞台上で活躍する日が楽しみです。

協力者一覧

地球市民の会 7～9月のご支援の皆様!!(本当に有難うございます)

正 会 員

秋葉 幸伸
 芦刈 正則
 芦刈 由美子
 安心院 晶子
 麻生 靖史
 阿部 功
 阿部 剛
 天ヶ瀬 三津代
 荒川 英勝
 有澤 正典
 池田 瑛
 石井 訓志
 稲垣 千佳子
 稲富 正人
 井上 常憲
 今泉 佳那子
 今泉 孝昭
 今村 雅弘
 弥富 雅信
 植田 和実
 上地 章夫
 大串 俊三
 大串 博志
 大島 隆
 大園 隆二郎
 大野 勝一
 岡本 勇一
 尾崎 義朗
 小野 悦子
 加藤 次男
 川副 春海
 河野 一郎
 川松 栄
 菊野 善久
 北原 壽豊
 地球市民の会ぎふ
 木村 方子
 栗田 明
 古賀 和夫
 古賀 大之
 古賀 智津子
 古賀 友大
 古賀 洋子
 古賀 愛基
 小園 拓馬
 小山 恭子
 近藤 秀二
 坂井 学
 相良 シズ子
 佐久間 博
 櫻井 愛子
 指山 弘養
 薩摩 和男
 佐藤 昭二
 七田 秀徳
 杉光 省五
 杉本 昭彦
 砂田 松美
 桃谷 信雄
 八坂 スミ子
 山口 久臣
 山口 廣
 山下 雄司
 山田 貢子
 杠 研一郎
 杠 好秋
 横尾 孝幸
 吉井 英隆
 吉田 英雄
 吉次 孝

力武 修
 力久 修
 瀬戸 法子
 瀬戸 晶子
 瀬戸 幸子
 副島 正幸
 高柳 かほる
 田口 フミ
 田口 光雄
 田島 広一
 鍋島 巧磨
 近田 真知子
 堤 加奈子
 徳光 清孝
 戸田 玲子
 永倉 遵五郎
 永倉 理一郎
 中曾根 健三
 中野 典正
 中溝 大介
 中村 元
 中村 裕英
 中村 電機製作所
 中山 靖雄
 成尾 雅貴
 西澤 和明
 西村 一守
 新田 一雄
 野上 俊樹
 野口 翔平
 野口 尚子
 野本 正彦
 畑 恵子
 八谷 まち子
 原 利幸
 原 康彦
 原田 直子
 深川 千幹
 福井 文一郎
 福田 祐子
 藤戸 博
 古川 昌宏
 保利 耕輔
 牧瀬 弓子
 増田 誠司
 松尾 大輔
 松尾 隆弘
 松尾 雄次郎
 松尾 孝
 松永 幹哉
 丸山 文章
 溝内 明
 満岡 信子
 南畑 みき
 宮嶋 寛治
 村田 麗紅
 本村 満江
 本村 義夫
 小野 康子
 谷口 優
 西村 尚子
 本田 耕一郎

団 体 会 員

(株)北島
 九州電力(株) 佐賀支店
 (株)佐賀銀行秘書室
 佐賀リコー(株)
 株式会社福岡商店
 満岡内科消化器科医院
 村上 説男(新規)
 特非) チャリティブ

ラットホーム
 (株)ミズ
 佐賀信用金庫

維 持 会 員

古賀 洋子

購 読 会 員

相島 博文
 熊本 由美子
 北九州地球市民の会
 重永 哲郎
 田中 裕子
 仲山 恵
 御厨 初美
 山崎 弥生

学 生 会 員

栗林 翔子
 古賀 慈猛
 藤木 祐太

賛 助 会 員

馬場 憲治

タイ クーキャオ中学

愛野 良治
 阿部 博
 阿部 礼子
 池田 志津子
 池田 サチ子
 板垣 道代
 稲葉 田鶴子
 岩永 公代
 内田 夕美
 浦川 イツ子
 浦郷 めぐみ
 江頭 泰子
 江口 静子
 江口 隆通
 江口 典子
 円城寺 久好
 大島 佐江子
 大野 圭子
 大原 侠
 片渕 健士
 門松 寛倫
 株式会社 ミズ
 川添 恵子
 木下 博和
 栗林 正則
 倉富 博美
 高野 たずこ
 小園 沢馬
 櫻井 淑康
 佐藤 さち子
 佐藤 隆之
 佐藤 基子
 志岐 洋子
 式町 伸子
 末次 摂子
 杉光 省五
 千住 泉
 高島 美佐子
 田久保 克明
 田寄 正義
 田中 暁美
 田中 信博
 田中 裕子
 堤 忠教
 寺井 勝雄
 徳永 千恵

徳永 務
 中島 俊子
 中島 文子
 中村 志津香
 中村 元
 南里 玲子
 新田 一雄
 納江 幸利
 野内 直穂美
 野村 久子
 野呂 美加
 秦 智美
 原口 洋一
 馬場 佐和子
 馬場 龍二
 平岡 恵里
 平川 朋子
 平野 明子
 深川 文一郎
 福井 ミチヨ
 福岡 淑子
 福本 睦子
 細貝 照代
 別頭 清子
 星田 綾子
 前田 邦彦
 松尾 慶子
 松尾 直美
 松瀬 清志
 松谷 直喜
 的野 信文
 宮地 鼓
 武藤 勝馬
 安川 義巳
 山口 則子
 山下 雄司
 山田 清
 山田 利明
 吉井 学
 吉田 純子
 相川 久美子
 相川 美恵子
 相富 和枝
 小野 康子
 田中 涼子
 西村 和洋

タイ クーキャオ高校

江頭 泰子
 江口 静子
 円城寺 久好
 株式会社 ミズ
 唐澤 利夫
 北村 尚道
 栗林 祐子
 高野 たずこ
 古賀 大之
 小松 重輝
 佐々木 佳寿子
 里中 長治
 千住 友二
 堤 堯子
 鶴田 美知子
 中野 美知恵
 納江 幸利
 野内 直穂美
 野口 恒治
 林口 多江子
 平岡 修二
 松枝 和代
 松林 久美子

的野 直喜
 牟田 泰明
 森田 由香
 森永 勝馬
 森 美由紀
 八田 康博
 吉岡 まつえ

タイ ポーゲウ校

愛野 良治
 池田 サチ子
 井上 弘子
 石川 祥子
 大島 隆
 大藤 次男
 亀井 一恵
 北原 壽豊
 小園 沢馬
 坂井 徳子
 田中 正子
 堤 輝夫
 中島 俊子
 西村 賢二
 納江 幸利
 野口 尚子
 原田 典子
 平岩 佳名子
 福井 丈一郎
 藤木 修
 古川 さと
 寶泉 正美
 眞崎 健次郎
 松尾 大輔
 松尾 隆弘
 松瀬 直美
 松林 久美子
 水川 真穂子
 宮嶋 トミエ
 本村 美佐子
 山口 勝矢
 山下 春美
 山下 陽子
 山田 房子
 吉田 純子
 龍 千秋
 近藤 剛
 寺戸 純子
 西村 尚子

シショダヤ奨学金

市原 次郎
 牛草 英藏

寄 付

古賀 逸郎
 熊谷 昭二
 大野 勝
 萩原 喜代子
 東京海上日動火災保険
 真如苑
 馬場 佐和子
 鍋島幼稚園
 古賀 智津子
 佐賀農業信用基金協会
 NHK佐賀
 九州電力
 佐賀市文化会館
 七田 聡子
 石井 訓志

※順不同で掲載させていただいております。

※大変失礼ですが、敬称は省略させていただいております。いつも本当にありがとうございます!!

11～12月のお知らせ

●は地球市民の会、♥は古賀道場
★は夢の学校の行事です

●テラネット全国大会 (地球市民運動連絡会議) 12月5日、6日実施！ 幣立神宮にて開催！

古賀前会長亡き後、彼を継ぐべく地球市民の会も邁進いたしておりますが、私どもの活動が全国のネットワークの皆さまのお考えと違ってしまっているように、皆様のご意見をいただく機会を作る必要があると考え3年ぶりにテラネット全国大会を開催いたしたく存じます。

日時：平成12年12月5日(土)～6日(日)

場所(宿泊)：

熊本県蘇陽町 幣立神宮内 世界平和道場

参加ご希望の方は事務局までご一報ください！

●10月に実施予定のミャンマー写真展は会場の関係で来年に延期しました。次回お知らせいたします。

♥第22回和道流空手道福岡大会

11/23(月・祝) 於：福岡武道館
全員参加の流派の大会。
今年も沢山、優勝・入賞するぞ～

♥第30回古賀英語道場英語劇祭

12/23(水・祝) 於：エスプラッツホール
30回の記念フェスティバル。
子ども達が涙・感動・笑いのステージをお届けします。



★ほうけんタマテ箱
カヌーで川下り
10月3日(土)

★(教育シリーズ5)
三遊亭歌之介独演会
10月9日(金)

★ほうけんタマテ箱
CONE野外活動リーダー養成講座
10月10日(土)～12日(月)

★ほうけんタマテ箱
金山登山
10月24日(土)～25日(日)

★ほうけんタマテ箱
昔ながらのろうそくづくり
11月上旬

★ほうけんタマテ箱
どんぐりキャンプ
11月7日(土)～8日(日)



★ほうけんタマテ箱
食農塾5(そばの収穫)
11月14日(土)～15日(日)

★ほうけんタマテ箱
食農塾6(収穫祭)
12月



★ほうけんタマテ箱 ちびキャン 12月25日(金)～27日(日)

スタッフの
ひとこと

行楽の秋！わたしの好きな旅番組

秋です！読書もスポーツもいいけれど、やっぱり旅も欠かせない！！テレビ番組を見て、無性に飛び出したくなる衝動や、しっとり紅葉を見て美味しいものを食べたい気分になること、ありますよね！? ということで、テレビでもラジオでも、あなたの好きな旅番組を教えてください☆

地球市民の会

- 大野 博之** ちょっと違うけど「世界遺産」！知り合いの家で見たデジタルハイビジョンの画面のイエローストーン(アメリカ)には度肝を抜かれ「実際に見に行きたい」と思われしました。商業主義な地デジには否定的でしたが、教育効果は高いだろうなあ。
- 畑 恵子** ちと古いですが、「神々の詩(うた)」と「地球に乾杯」が好きでした。旅番組というより紀行ものですが、これらと「世界の車窓から」以外は見ません。やっぱり「見る」より「行く」に限る。
- 戸田 玲子** 「世界ウルルン滞在記」！！人と人との出会いを良い感じに表現されているあたりが好きです。旅先で出会った人のことを思い出したりして、私もうるうるします。
- 高柳かほる** 「田舎に泊まろう」です。先日、3時間枠で放送がありましたが、もらい泣きしながら見ました。1泊2日に画面以外の凝縮された人間模様が感じ取れるので大好きです。
- 岩永 清邦** 関口宏の息子さんと関口宏さんが出演する「中国鉄道大紀行」という番組が好きです。あの広い中国大陸を鉄道で何十時間もかけて旅し、途中、駅で降りては各地方の食べ物を食べ、人との交流もあり、そこの涙もありと、文化の違いや中国の現状も勉強できる番組です。

古賀英語道場・空手道場

- 古賀 洋子** ぶんぶんテレビの「のりのりテクテク」ご存知ですか？毎回、佐賀市内のひとつの町を選んで、そこをくまなく歩いてまわるといふ本当のどかなローカルに徹した番組です。いつも通っている町がテレビを通して見るのと違う町のように見えて不思議です。
- 山下 春美** 永遠の旅番組「兼高かおる世界の旅」。1959年から31年間、世界150ヶ国を、ちょっと英語なまりの兼高かおるさんが毎週案内してくれました。この番組を見て旅行会社を就職先を選びました。今はSTS土曜朝「地球まるごと見聞録」。旅心をくすぐられます。
- 古賀 大之** 僕のお奨めの旅番組は「瑠璃色の砂時計」です。毎週日曜日のお昼にKBCで放送されている九州の名所を紹介する番組です。大分・九重、熊本・阿蘇。見ているととても行きたくなり、見終わると行った気分になれるとでもリズナブルな番組です。
- 青柳 達也** 旅番組はあんまり見ません。旅にでたくなればすぐに出てしまう。そんな自由人です。最近はずスベキスタンに行きたいと思っていますが、なかなかすぐには飛び出せる距離ではないですね。数年のうちにね・・・！！

夢の学校をつくる会

- 吉村 薫** 土曜の朝の「旅サラダ」で海外と国内を見て回り、日曜の「旅の香り」で締めくくります。1泊2日の旅を満喫(?)しています。行ったその気になれるのはお得ですが、やっぱり旅で癒された～い！！
- 相良 伸武** 特にこれといった旅番組はありません。達ちゃん同様すぐ飛び出して行く方です。最近テントを買って、早速鷹島にキャンプに行ってきました。偶然にも直記さんとバツリ！びっくりした～！きれいな海、満点の星空、あと数回は年内に行きたいな。

地球市民ネットワーク

- 北海道地球市民の会
〒061-3214 北海道石狩市花川北4条2-197
会長／阿部功 事務局／新保知博
TEL・FAX：0133-74-1296
- 地球市民の会ふくしま
〒963-8681 福島県郡山市喜久田町1丁目120-1
(樹)石黒
会長／事務局担当 石黒秀司
TEL：024-959-6426
FAX：024-959-6577
- 地球市民の会東京
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-2-13
会長／有澤正典 事務局／佐藤敏行
TEL：03-3662-0331
FAX：03-3662-0400
E-Mail：arisawa@nun.co.jp
- 地球市民ACTかながわ
〒231-0821 神奈川県横浜市中区本牧原3-1-203
会長／近田真知子 事務局／伊藤田善行
TEL・FAX：045-622-9661
E-Mail：port@tpak.org
- 地球市民の会ぎふ
〒501-6241 岐阜県羽島市竹鼻579-1
竹花園内
会長／森幹治 事務局／平井八重子
TEL：058-391-5415
FAX：058-391-8600
- 地球市民みえの会
〒514-0027 三重県津市大門7-15津センターバウス3F
津市市民活動センター内
会長／伊藤洋之 事務局／秋葉幸信
TEL：059-226-5700
FAX：059-224-8911
E-Mail：miemiemie21@hotmail.com
- 地球市民の会京都
〒605-0873 京都市東山区下島町484
会長／宮川尚子 事務局／西田一貴
- 神戸ノ戸有頂天倶楽部
〒657-0045 神戸市灘区下河原通3丁目4-3
会長／松元隆司 事務局／大西陽治
- 愛媛地球市民の会
〒799-0712 愛媛県四国中央市土居町
入野859-1
会長／森高康行 事務局／丹生谷孝久
- 北九州地球市民の会
〒802-0006 福岡県北九州市小倉北区魚町1-5-14
中央会館2F
会長／河野一郎 事務局／大山研児
TEL：093-521-8181
FAX：093-551-2296
- 地球市民の会福岡
〒814-0164 福岡県福岡市早良区賀茂2丁目30-4
(樹)増屋内
会長／増田誠司 事務局／西村和寿
TEL：092-801-5888
FAX：092-801-5789
- (特活) コミネット協会
〒861-0839 熊本市長嶺南2丁目5-31
会長／池永憲貞 事務局／富田、田中
TEL・FAX：096-387-7139
- 古賀英語・空手道場
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10
TEL：0952-25-2295
FAX：0952-26-4922
- 夢の学校をつくる会
〒840-0822 佐賀県佐賀市高木町3-10
TEL：0952-22-6262
FAX：0952-26-4922

ネットワークテラ 秋号 VOL.136

発行／
特定非営利活動法人 地球市民の会
〒840-0822
佐賀県佐賀市高木町3-10
ホームページ：http://tpa.nk-i.net
E-mail：office@tpa.nk-i.net
TEL：0952-24-3334
FAX：0952-26-4922
発行日／2009年10月15日
発行人／佐藤昭二
編集人／地球市民の会 事務局
印刷／株サガブリんティグ